

「オウム病」で一躍有名になったので、ご記憶の方も多いのではないかと思われる)。スチロール箱にクラッシュアイスを詰め、冷たくしてあった缶ジュースは、午後の暑い時間帯となった忌部の駐車場でみんなの喉を潤した。

記憶を辿ってみると、集会に関して一番印象に残っていたのは、現地見学会の日の暑さのことであった。水草研究会の全国集会は夏に行われるの

で暑いのは当たり前のような気がするが、私にとって暑さが記憶として残っているのは、何故かこの松江での見学会である。あの梅雨明けの空の青さと暑さの記憶は、これからも薄れることは無いであろう。最近では、汽水域を研究の主な対象としているために、ため池を訪れる機会はめっきり減ってしまったが、またいつかゴムボートを池に浮かべ、水草の調査をしたいものである。

第13回全国集会（神戸）をふりかえって

角野康郎（神戸大学）

神戸での全国集会は第13回（1991年）にあたる。神戸には事務局がありながら当時会員数は2,3名であった。準備は会員の碓井信久先生と私のふたりで分担し、当日の受付は私の妻と学生ひとりに頼んでスタッフ計4名という家族的運営であった。会場はJRの駅から至近の舞子ビラを確保できたので北は青森県、南は佐賀県にいたる計57名の参加者の皆さんも遅れずに集合でき、年々増加して時間のやりくりを気にしていた11題の研究発表も無事終えることができた。裏方をやっていると時間の進行や設備のトラブルのことなどが気になって、研究発表をゆっくり聞く時間もないのが常だが、当時は今から思えばまだゆったりした雰囲気があったのだろうか、ときどき受付の様子をのぞきながら皆さんの話を聞くことができた。

夜の懇親会は、仲居さんつきの宴会となった。ここでの税金とサービス料を計算に入れていなかったために、実は今まで23回の全国集会で唯一赤字を出すことになった。この点で会にはご迷惑をおかけした。このことが妙に失敗談として記憶に残っている。おまけに二次会では飲み過ぎたなー。

翌日は天候に恵まれエクスカッションに出発である。播磨地方の水草を堪能してもらおうと碓井

先生が計画を立ててくれたコースである。まずは明石市のオニバスの群落地。ここは今でも全国最大規模のオニバス群落であるが、実はこの年の調子はそれほどよくはなく、池の1/3ほどしかオニバスが生えていなかった。しかしこんな大群落を見るのは初めてという方も多く、喜んでもらえたのはさい先のよい出だしであった。

午後から企画した比較的小さな池をめぐるコースも好評だった。バスから歩いてオリエンテーリング風に、事前に配布した地図を頼りに自由に歩いていただいた。ジュンサイやヒメコウホネなど静かなたたずまいの中で観察してもらえたと思う。最後の吉川町の見学地は、小さな、それこそ畳6畳ほどの池が散在する場所であった。水草だけでなくトンボの種類も多く、時間をかけて回ればたいへん興味深い場所なのだが、限られた時間でどれだけ見てもらえるか不安であった。しかし、ここがいちばん面白かったという話を何人かの人から聞いた。やはり他に類のない興味深い場所だったのであろう。しかし、今やこの地区のすばらしい自然も半分ほどが開発によって大きく変化しつつあることは残念なことである。

無事に責任を果たせて当日の夜のビールはうま

かったはずであるが、安心してしまったのか、記憶に残っていることは少ない。やはりばたばたしていたんだと思う。当日の記念写真を見ると、自分は若かったなあという思いが真っ先に浮かぶ。このときに参加いただいた多くの方がその後も

「常連」として毎年顔を合わせられるのは、水草研究会ならではのと思う。最近は参加者も増え、運営の仕方も変化せざるを得ないが、水草研究会らしさは残していきたいものだと思っている。



第15回全国集会—大津—を振り返って、2つの「もしも」

浜 端 悦 治 (琵琶湖研究所)

1993年7月24日・25日に琵琶湖岸で開催した第15回全国集会では、87人もの方々に参加して頂くという盛況ぶりであった。少し時間が経ち、あまり記憶も定かではないので、ここでは2つの「もしも」ということに限って開催当日のこととその後琵琶湖の水草状況についてふれてみたい。

そもそも集會に90名近い方々が参加して下さったのは、たぶん、県のセミナー船「みずすまし」を利用して琵琶湖を縦断するエクスカージョンを計画していたからではないかと思っている。会場となった私どもの研究所は琵琶湖の南端、大津の湖岸にあり、大津港を出て、北湖の近江八幡市の宮ヶ浜と沖島とに挟まれた水深5～7mでの水域

を経て、最北部の東岸部にある湖北町の尾上付近に船で向かうというエクスカージョンのルートを考えていた。ただ、船の定員が約30名ということで、仕方なく2隊に分け、1隊は船で、もう一隊はバスで尾上に向かい、午後は船とバスとを乗り換えて大津に戻る計画にしていた。陸上ルートでは八日市市付近の布施溜や宮溜といった溜池でのサンプリング等を考えていた。

参加された方々は、乗船を楽しみにして来られたことと思うし、計画した側も、近江八幡市や尾上付近では、7月上旬に行った予備調査などからオトメフラスコモやヒロハノセンニンモ、ネジレモなどの生育を確認していたので、それらを見て